

翌週の

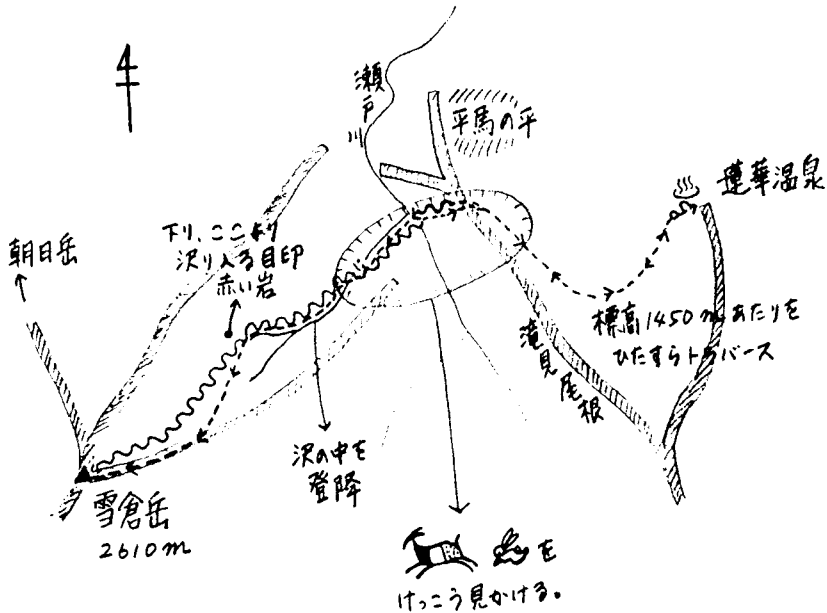
雪倉岳

L蔵田道子・白沢・島田

3/28 (金) 雪 シュプール白馬、バスと乗りついで柕池に着いた時は、雪がチラチラし始めた。ゴンドラを降りて、林道をショートカットし上に出る。成城小屋からは、ヘリスキー用と思える赤旗が50m位ごとに立ち、濃い霧の中をそれを頼りに登る。天狗原ではほこらはすぐ見つけたが下り口のピンクの道標が見つからない。ようやく見つけて谷に滑りこんだ時はホットした。蓮華温泉に着くと雨だった。 柕池9:20 - ほこら12:05 - 蓮華温泉2:00 (白沢光代)

(次ページへ続く)

雪倉岳の2 ルート図



3/29 (土) 気温が高く、ガスが濃い。今野さん、岩さんは早々と下山する事になり、私は遠慮しいしい蔵田さん達のパーティに合流させてもらおう。昨日、今野さん達とつけたトレースを辿り、瀬戸川まででかける。登路はガスで真っ白、意気消沈して、帰る。やがて、ガスもとれて、夕暮れ時、雪倉のスカイライン近くには一番星がホッホと、瞬きしながら「オイデ、オイデ」をしているみたいに見える。

3/30 (日) 晴れ！3日連続の雪倉参り、今日こそは登るぞ、と勇んで出発。カッパカッパの雪で、瀬戸川よりアイゼンをつけて進むが、しだいに雪も中々滑るようになってアイゼンをはずす。(4人中3人がフンタック式のアイゼンなので、即できるのです。)急傾斜の所は、けっこうもぐって先頭の人ほえらく苦痛をしていたようだが、それも束の間、「暑い、暑い」と脱ぎまくっていたのも束の間、標高2000m近く、頂上を待つながら大斜面に達するあたりから、ビュビューンと強風が吹き出し、カッタイ雪となり、再びアイゼンをつけ、気をひきしめてかかる。少々歩調もぼらけ出し、「行くのか？やめるのか？」とメンバーの気持ちも気りなりだしたが、やぶへびになっても困るし、それにお天気と風のご機嫌が気にならなければ、何とか届くんじゃないかな、と見通しを握ったので、沈黙を守って進む。ところが、気がかり焦っているせいか、これがなかなか遠い。風はどんどん激しくなるし、ここをひき返したら又来なきやなんないしなんも打算的作業も考えたりして、気持ちには体が動いてくれないもんです。誰かが「やめよう。」って言ったらそうなるだろうな、なんて気にもなったりしたから、でも誰かそうは言わずに、やあ、と雪倉山頂に到着。よかった。記念撮影もせずに即下山。剣はずでにかすの中に消え、お天気も心配。3年前、スキーでここを縦走した時には、この頂上直下が滑れず、「木の葉落し」がうまいとほめられたりもしたもんですが、今やこの斜面も、少々難ありながらも苦もなく降りる。山スキー同志会で学んだ3年間、まだじゃあなかった、と本心から思う。途中、毛十力雪の所もあったが、うんざりする以前には終わらさない、登りに比べれば、案にあってなく瀬戸川に戻ってきましよう。この頃より降雪も本格

的になり、タイムリミットでの登頂だったと悟る。この夜は蓮華温泉に泊り、「雪のトンネルをくぐって行く」という露天風呂に、何かおもしろそうなのを期待していてもがっかりする。

3/31 (月) 雪。平岩に下る。晴れていたら、この日は朝日に行くつもりだったが、観念しての下山。私は、靴ずれの痛みをこらえ、そのヨレヨレ悲惨なフィナーレにならざるを得ない。5日間の山行で靴も靴下もぬれきっていたのが、まずいけなかったと思う。予備の靴下は、この日こそはくべきだったようでした。おまけに、帰りの電車の中で、ハッと気づいた。スキーQ切符の有効期間がこの日までだった！休暇はあっても、切符の日目はずなかったのです。遊ぶ過ぎには注意せねば、と思いました。足のためにも。

(手塚)

(コースタイム)

3/30 蓮華温泉 ⇨ 6:02 ——— 瀬戸川 7:08 / 7:25 ———

雪倉山頂 12:47 / 13:10 ——— 瀬戸川 14:28 ———

蓮華温泉 15:45

3/31 蓮華温泉 8:00 ——— 角小屋峠 10:10 / 10:40 ———

木地屋 12:23 ——— 大所 13:00 77分 平岩

